自然と共に　いのち　はぐくむ

ゆうき

2014/07 夏号
43号
通刊80号

農林水産省登録認定機関・NPO法人 熊本県有機農業研究会 発行
〒861-8028　熊本市東区新南部 2-5-13　TEL:096-223-6771　FAX:096-223-6772
http://www.kumayuken.org/
info@kumayuken.org

✺ ゆうきフェスタ2013報告
✺ 火の国九州山口有機農業の祭典inみやざき報告
✺ 有機農業リサーチプロジェクト
✺ 熊有研大新年会報告
✺ オーガニック食クエスト【tutti】
✺ 各部会の活動
✺ 40周年記念式典報告　ほか

合志市の農業公園で開催した、熊本オーガニックの祭典「ゆうきフェスタ２０１３」の様子。朝はあいにくのお天気でしたが、たくさんの方で賑わいました。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました！

身土不二

熊本県有機農業研究会
青年部・理事　安藤 光一

有機農業に限らず、農業従事者の高齢化は進んでいるなあ、と実感することの多い昨今、一方で、若い人を目にする機会も以前より増えてきた気がする。有機農家や自然の循環の中に身を置く暮らしを志す若者に接することも多くなった。減っていく熟練の農家の数から比べると、新しく増えた若年の農業者の数は明らかに少ないのかもしれないが、若い人がいる限り、そこには未来がある、と思いたい。嬉しいことに、彼ら、もしくは彼女らの多くは楽しそうに見える。農業をやることに明るい未来を思い描けるような世の中になってきたのかなとも思う。これから、厳しい現実に直面していくのだろうけども、時には失敗してそれを糧にまたがんばって成長していければいいことだ。

かくいう自分も、Uターンして実家の農地の一部で有機農業を始めて8年目になるが、いまだに失敗から学ぶ羽目になることが多い。生涯勉強だ。激動の時代を生きた先輩方の築いてきた礎の上で就農した我々若手にとっては、今の時代、追い風が吹いていると感じる。しかしその風に乗りさえすれば誰もが有機農業で生活していけるほどの大きな風には未だ成りえていない。経営や栽培上の技術など、越えなければ生活していけないその壁はかなり高いのが現実だ。その高い壁を乗り越えるのにはエネルギーが必要で、その源は各々違うかもしれないが、安全で、美味しい食べ物を作って、喜んでもらう、という嬉しい事の繋がりは、誰にとってもきっとそのエネルギーの源になるに違いない。

嬉しい事や楽しむことを共にすることを大事にして日々作物や周りの人たちと関わっていけば、これからの有機農業者には、きっと明るい未来がやってくると信じたいと思う。

《しんどふじ》：身体は土と離れてはあり得ないということ。農業を営むひとたちにとって大切なキーワードとなっています。

熊有研の各部会も出展。種苗部は在来種の野菜ジュースの試飲や、種のおすそ分けも。食農育部の毎年好評のワークショップはごぼう味噌作りとこんにゃく作り教室。広報部は、雑穀プレゼントつきのオーガニッククイズを実施

生産者の有機野菜のブースのそばでは、野菜ソムリエさんが試食付きで有機野菜の魅力をアピール。コラボメニューとの相乗効果もあって、たくさんの来場者で終日賑わっていました

「環境フェスタハウス」として、地元企業などに協力いただき会場内にモデルハウスを設営！環境に配慮したエコ生活を提案しました

子どもも大人も楽しめる体験企画は大好評！草バッタ作り教室では、ベテラン有機農家さんの隠れた特技を披露していただきました

会場内の飲食は、リユース食器を導入！デポジット制を採用した食器の回収ブースの運営は、東海大学農法研究部のみなさんにがんばっていただきました

今年も県の新規就農支援センターにご協力いただき、就農相談コーナーを設置。有機農業を始めたいという方が話を聞きに来られました

出展・協賛一覧は、次のページへ！

ゆうきフェスタは、今年で14回目。毎年進化を続けながらも、今年も企画・準備・設営まで「オーガニックの輪」として集った仲間の力で作り上げ、熊本を中心とした「有機」が大集結するお祭りを開催することが出来ました。

朝の設営時には勢いよく雨が降り皆心配そうな表情でしたが、会場時間になると雨も上がり多くの方に来場いただき、広い会場に笑顔がたくさんあふれた一日となりました。終わってみれば90団体を超える出展ブースに約5000人の来場者、さらに各企画も盛り上がり、昨年よりもさらに充実したものになったと実感できる内容でした。

様々なステージ企画

開会イベントの専修大学玉名高校吹奏楽部によるマーチングが雨のため中止となってしまったことが悔やまれますが、ステージでは一日を通して音楽や演技、役立つ講座など、今年も様々な企画を実施しました。

昨年に続く野菜ソムリエイベントは雨も上がり、人手も多くなったお昼から始まりました。今回のテーマは美肌。美肌の大敵、便秘、乾燥肌、冷え症等の女性の悩み解消に重点を置いたものでした。選ばれた野菜は食物繊維たっぷりのサツマイモ、大根、ゴボウ、大豆の四品目。煮る、蒸す、焼く、干す、生など、食べ方はありますが、より美味しく効果的かつ簡単な食べ方が紹介されました。例を挙げるとサツマイモはゆっくり加熱すると甘味倍増。大根は切り干しにすると食物繊維やカルシウム、鉄分がぎゅっと凝縮され大幅アップ！おまけに保温効果絶大。まるで魔法のような栄養素の話は保存法へと進みました。一番盛り上がったのは女性ホルモンを含む加工品クイズでした。正解者には有機野菜のプレゼントがあり、嬉しい悲鳴が上がりました。イベントの締めは顔のリンパマッサージ。これはクイズの時より真剣なギャラリー。顎から耳元へ、耳元から首筋、首筋から肩先へとマッサージしながら閉会となりました。

午後からは、バスケットボール教室を主宰いただいた熊本ヴォルターズの紹介とフリースタイルバスケの演技や、ちょんかけごまとスーパー竹とんぼの実演披露、熊有研の養成塾の新規就農者による体験発表などもはさみながら、オーガニックに縁のあるアーティストによる音楽ライブを贅沢に行い、充実したステージとなりました。

（左上から時計回り）東田トモヒロさん、つむぎ（とぅから家。）さん、チトララタさん、サヨコ&オトさん。ステージ電源には独立型太陽光パネルを使用

食のコラボ企画！

ずらりとテントが並ぶ各ブースでは、今年も有機野菜・米やオーガニック食材の販売、各種展示などでところせましと賑わっていましたが、今年の目玉企画の一つが、有機生産者と料理人が共演した「コラボメニュー」です。想いのこもった食材を活かして、この日のために特別なメニューを作り上げていただき、この会場で限定販売されました。美味しいメニューを食べながら、使用された有機の食材をすぐに手に取ることができるよう、タッグを組んだ両者は隣同士になるようテントを配置。熊本じゅうからオーガニックが集まるゆうきフェスタならではの企画に、いろいろな立場の方が輪を作り前進していく一歩が現れていたように感じます。

第21回火の国九州・山口有機農業の祭典inみやざき

2014年１月18日～20日、で開催された祭典の様子をレポートします

毎年各県持ち回りで開催されている「九州・山口有機農業の祭典」。今年は平成26年１月18日に宮崎市のホテルフェニックスで開催されました。初めに、数年前、宮崎に大きな打撃を与えた口蹄疫についての報告があり、その辛さを乗り越えてきた中学生の作文の発表をみんな涙ぐみながら胸が詰まる想いで聞いていました。

そのあと、『種のよろこび～未来につながる一粒のちから～』というテーマで、長崎で自家採種を行っている岩崎政利さんの実例報告やパネルディスカッションがありました。

それぞれの土地で受け継がれてきた伝統野菜を守っていこうと自家採種を長年続けていくことの大切さが語られ、これからの活動の広がりを期待する声が多くありました。そして、当日のメインゲストで自分でも農業を行っている加藤登紀子さんのコンサートがありました。

『百万本のバラ』や『知床旅情』などの懐かしい曲から新曲までたくさんの歌と、彼女のこれまでの人生を語ったトークを楽しんだ２時間でした。

コンサート終了後には種の交換会がおこなわれ、その後の夕食交流会や夜なべ談義も愉しく活発に深夜まで行われていました。

翌20日には、フェニックス・シーガイア・リゾートで『宮崎オーガニックフェスティバル』が開催されました。

宮崎の有機農産物の生産者が集結し、また晴天で暖かい日だったので、たくさんの来場者でにぎわっていました。マッサージやミニライブなども参考になりました。

（文・菊川）

有機農業者養成塾の報告

昨年4月にスタートした養成塾3期生は現在11名です。毎日受入農家での農業研修と月に1度の集合研修を行い、今春からの就農を目指して頑張っています。今年から、申請して認められれば2年目の研修も出来ることになり、それぞれの夢に向かって日々農業と格闘の毎日です。

2月の集合研修では、加工の授業として『余剰野菜を使ったキムチ作り』を学びました。形が大きすぎたり、小さすぎたりの規格外の野菜を余すことなくすべて使えると好評でした。白菜キムチと大根のキムチが美味しく出来上がりました。

事務局より

ニュースレターの発行が始まります

熊有研の会員向けにタイムリーな情報をお届けするべく、新たにニュースレター（会報）を発行することになりました！広報誌である本誌「ゆうき」とあわせて、今後ともよろしくお願いいたします。

熊有研のパンフレットがリニューアル！

養成塾など近年始まった活動も加え情報量もアップ。表には有機農産物やゆうきフェスタの紹介を載せ、多くの方に有機のことを知ってもらえるようにと思い作成しました。置いていただけるお店など募集中です！

出展者一覧（順不同）

おかげさまで賑やかに開催することができました。
ご出展ありがとうございました！

株式会社 有光
アンデス物産
グリーンコープ生活協同組合くまもと
潮谷広吉商店
新規就農者グループ
雑貨bb
SORAMOMO MANLY
Teardrop
jam-jam
（社）農文協九州沖縄支部
肥後のたまもの
人吉市有機農業推進協議会
松合食品（株）
MOA自然農法　熊本県連合会
青砥さんちの野菜畑
天草育組（あまくさはぐくみ）
アンナプルナ農園
（株）うちだ屋食品「肥後とうふ大」
株式会社　果実堂
倉永養蜂園
KENGOMA
ごぱん屋うっでぃー
ｔｗｉｎｍｏｏｎ＆私への贈り物
TRICOT
のむら自然農園
畑まるごとマーケット「有機生活」
甸堀内製油
フェアトレードシティくまもと推進委員会
株式会社マルタ
まるは油脂科学株式会社
美里ゆうき協同農園
Reborn
株式会社ろのわ
生活協同組合 熊本いのちと土を考える会＆グリーンファーム熊本
宇城市有機農業推進協議会（宇城有機農業プロデュース）
九州の食卓
九州自然食品協同組合
熊本県立矢部高等学校生活・園芸部
こびとのマルシェ
秀明自然農法ネットワーク
食工房「わが家」
くまもと産直クラブ
（有）シリカファームしすい
株式会社　地の塩社
百草園・千草会・万菜村
株式会社　緑の資産
BIO SALUTE・田園キッチン・みゆきの里
ＮＰＯ未来へつなぐいのちの環
山都町有機農業協議会
(有)くまもと有機の会
養生伝承館＆養生農園
有限会社　渡辺商店
あっぷるみんとハーブ農園
カフェ　ココペリ
パン工房　季節の酵母パン
ベジ食堂「そらの実」
健康農園
すぐcafe時間
チャフェ
つのだ青果（地産倶楽部）
mamy's　つぶつぶキッチン
THE　DAY　CAFE
つなぐかふぇ　とうから屋。
11November
TOKOsie
味噌の中山大吉商店
もんれーぶ
山都町農産物出荷協議会
PORCO FARM
やきいも笹亀屋
養生カレー
ユルト
るろうのカレー屋　わさんたらんか
九州農政局　消費の部屋
くまもとグリーン農業推進本部
熊本市ごみ減量推進課
熊本県新規就農相談コーナー
一般財団法人　クリーン帯山
中重企業（株）九州支社
熊本県有機農業研究会　広報部
熊本県有機農業研究会　種苗部
熊本県有機農業研究会　食農育部
熊本県有機農業研究会　青年部
熊本県有機農業研究会　菜の花プロジェクト
熊本県有機農業研究会　生ごみ循環プロジェクト
野菜ソムリエの会
国際竹とんぼ協会
肥後ちょんかけごま保存会
ぎんなん太鼓
ロアッソ熊本親子サッカー教室
VOLTERSバスケットボール教室
環境フェスタハウス
東海大学農法研究部（リユース食器）
紙飛行機飛ばし
草バッタ作り教室
バルーンアート
0円キャンプスクール
熊本県有機農業研究会

協賛一覧（順不同）

ご協賛いただきありがとうございました！
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

医療法人社団寿量会 熊本機能病院
（有）つのだ青果
（社）農山漁村文化協会 九州・沖縄支部
グリーンコープ生協くまもと
（有）くまもと有機の会
九州自然食品協同組合
大東肥料株式会社（株）
医療法人博光会 社会福祉法人建成会 みゆきの里
熊本県農業協同組合中央会
宇城市有機農業推進協議会
（株）内田安喜商店
肥後銀行 神水支店
you+you くまもと農畜産物市場
株式会社 本伝九曜紋
こびとのマルシェ
有限会社 渡辺商店
（株）マルタ 九州事業所
（株）原田アイガモ孵化場
熊本いのちと土を考える会
人吉市有機農業推進協議会
（株）果実堂
（有）グリーンファーム熊本
秀明自然農法ネットワーク
中重企業株式会社
合同会社有機生活
百草園
松合食品株式会社
山都町有機農業協議会
山都町農産物出荷協議会
産直クラブ
（有）シリカファームしすい
種の未来交流会実行委員会
（農）美里ゆうき協同農園
河津製材所
（株）吉安建設
株式会社ミズタホーム
株式会社ファミリアホーム
松下生活研究所
（株）地の塩社
くまもと産直クラブ
（株）ティア
PURELY
株式会社ヘルスコガ
健康農園

◆主催 ゆうきフェスタ2013実行委員会（青木悦朗委員長、渡辺眞明副委員長）
◆共催 くまもと有機農業推進ネットワーク
◆後援 公益財団法人熊本県農業公社・九州農政局・熊本県・熊本市・合志市・熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・合志市教育委員会・菊陽町教育委員会・熊本県農業協同組合中央会・熊本日日新聞社・NHK熊本放送局・KAB・KKT・RKK・TKU・FMK
※この事業は公益財団法人公益推進協会の夢屋基金による助成を受けて開催しました。

部会活動報告

熊有研には現在部会が６つ。それぞれメンバーが自主的に集って活動しています。
興味があるものがあったら、一緒に加わってみませんか？
お気軽に事務局までお問合せください♪

種苗部会

2014 年 5 月 31 日（土）に、熊有研 40 周年を迎えるにあたり、自家採種であり、在来種である野菜で、料理を作ってみんなで食べようということになり、東精米所さんがもっている黒米、赤米によるおにぎりと粟おこし、和田さんの緑モチ米による赤飯、もちろん小豆は肥後小豆を使用して、大豆は小糸在来種で、こおる豆を作ってもらいました。他にもたくさんの重箱にいろんな農家の生産者方から、また会員の方々から持ち寄られた料理で皆様腹一ぱいで満足されていたようで、とても良い案だったなあーと会員で話した事です。大成功でした。

また、在来種の野菜を東京の伊勢丹デパートで売って頂くことも決まり、熊本の方の窓口も決まり、あとは出荷する人を募集するはこびになりました。

（徳田　勇次）

青年部会

青年部のこの間の活動としては、12 月に会計勉強会を開きました。毎年苦労する確定申告の控除の説明、農業経営のアドバイスなど、いろいろ教えていただきたした。

11 月のゆうきフェスタでは、新規就農者の人達と共同でブースを運営して、野菜の販売、農コンの企画、就農相談コーナー、ロアッソ熊本の親子サッカー教室、熊本ヴォルターズのバスケット教室などの企画に携わりました。

若い人たちの横のつながりを、このような企画を通して少しずつでも増やしていきたいと思っています。引き続き青年部では新たな部員を募集中ですので、ご興味を持たれたら気軽にお声かけください。

（安藤　光一）

菜の花プロジェクト

去年の「ゆうきフェスタ」ではステージの電源を太陽光発電でまかなうという試みがなされました。菜の花プロジェクトでも以前から、会場の使用電源を全て BDF による発電でまかなえないものかと思ってきました。今年こそはそれが実現出来たらいいと思っているところです。

さらに来年は、「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」の 10 周年大会が熊本で行われることになったそうです。TPP が現実化すると真っ先に標的になりそうな組み替え食品の表示問題、今こそ声を上げて行かなくては手遅れになりそうです。菜の花プロジェクトも集会実行委員会に参加して成功のために頑張ります。

（間　司）

生ごみ循環プロジェクト

地産池消の竹チップを使って、熊本市のダンボールコンポスト講座の講師を月１～2回のペースで務めています。経験者の方から質問を受けたり、お子さん連れの若い方がたくさん受講されたりと、広がりを感じます。また、家庭でコンポストを続けていただくために、竹チップは熊本市東区のビオ天粧さんと有機生活さん、そして熊有研事務所でも購入できるようになっています。

11 月のゆうきフェスタでは、コンポストの実演を行いましたが、予想を超える人気でした。テントには、竹チップ製造の機械や材料となる竹のオブジェもそれぞれ取組まれている方に持って来ていただきました。

地域資源の循環についても交えながら来場者の方と交流することができ、こちらも大いに勉強させていただき、とても良い機会となりました。

（間　澄子）

食農育部会

今年も松合食品さんにご協力いただき「美味しい手前味噌講座」を開催、味噌の仕込み体験と座学講座を実施することができました。参加者の方からレポートをいただきましたのでご紹介します。

小学生の林怜美さんから

２月８日（土）、宇城市にある松合食品へみそ作りに行きました。みそ作りは初めてなので、とても楽しみにしていました。

みその材料は、大豆、こうじ、塩で、これを混ぜ合わせている時、とうめいなプラスチックのような物が入っていて心配になりました。でもそれは岩塩との事で安心しました。ここのみそは、大豆やこうじだけではなく、塩にもこだわっているからおいしいんだと思いました。

みそは3ヶ月したら出来るそうなので、このみそでみそ汁を作りたいと思っています。うちでは、ここのしょうゆや、みそを食べているので、どんな会社で作っているのかを知る事が出来ました。

みそがどのように作られるのかもわかり勉強になりました。とても良い体験でした。

熊本県有機農業リサーチプロジェクト開始！

熊本県有機農業研究会は、平成25年12月から県の委託を受け「熊本県内・有機農業者の技術・経営体系化事業」の調査を実施しております。

有機農業推進法の制定から7年。農林水産省の統計によれば、有機農業に取り組む農家数は35％増加し、就農希望者のうち28％が有機農業を希望しているというデータもあります。

熊本県において有機ＪＡＳ認定農家戸数は全国第４位、（平成25年３月）面積においては第３位（平成24年４月）となっています。

しかしながら、有機ＪＡＳ認定者は実数が把握されていますが、その詳しい有機農業についての技術・経営実態についての調査は過去に例がありません。また有機農業推進法で規定された有機農業者数や栽培作物についての実態調査が行われたことはありません。

現在、さまざまな方の協力により、アンケートの回収数は三百件を越え、アンケートをもとにした、聞き取り調査も本格的に始まりました。

今回の調査において熊本県における有機農業の広がりをデータとして示すことで有機農業が地域振興の有効な手段になること、また技術のデータベース化・共有することによって新規就農者が参入しやすくなることを目指したいと思います。

（文・間＆宮崎）

熊有研　大新年会開催！

去る1月26日、熊本県有機農業研究会の大新年会が熊本市内鴛町通りの『ｔｕｔｔｉ』にて開催されました。

当日は午後より別会場にて「ゆうきフェスタ反省会」と「養成塾意見交換会」が執り行われたこともあり、60名定員の会場はほぼ満員の盛況ぶりでした。

宴は当会青木理事長の挨拶と森田副理事長の乾杯の音頭で始まり、間　澄子さんの司会により各団体・グループ毎に一言メッセージを頂きながら進行されていきました。

また当日はオーナーシェフのご好意により、当会の会員である山都町・坂本さん（梅山豚（メイシャントン）、宇城・澤村さん（ミニトマト）、小川・うきうき森田農場さんと植木・百草園さん（各種野菜）に提供いただいた食材を持ち込みさせていただき、素材の味をより引きたてた料理にしておいしく堪能させていただきました。

日頃から有機農業にいろんな形で関わっていても、他の会員さんと顔を合わせる機会が少ないと感じていた方も多かったと思います が、今回この会を催したことで会員同士のつながりができ、今後さらにその絆が強まれば と思います。

最後になりましたが、『ｔｕｔｔｉ』のスタッフさんに心から感謝いたします。

（文・河村）

オーガニック食クエスト vol.18

by 広報部

熊本県産にこだわったイタリアン tutti

tutti
熊本市中央区安政町２－２９
TEL：096-323-6068
営業：17:30～翌1:00
定休日：火曜日　※予約は応相談

市内アーケード内のビル2Fと、ちょっと奥まった所にある「tutti」。店内に入ってまず目を引くのが、壁にかけられたオシャレなコルクボードです。九州一円の生産者さんが、料理に使われている野菜と共に紹介されています。注文したものが来るまでのひとときも、野菜の出身地を知ったり、知り合いを探したりして楽しく過ごせます。

そんな野菜達が織りなすメニューはというと、自然栽培小麦で作ったフォカッチャ、ピザ、梅山豚のソテーグリル野菜添えなど、上質な品々が並びます。肉、野菜とも、素材に自信があるからこそできるシンプルな調理法がぴったりで、料理のカメラ撮影が終わるのももどかしく次々と平らげてしまいました。

お店の名前は、店員さん曰く「オーケストラでも使う用語で、イタリア語で『みんなで』という意味なんです」。その名の通り、野菜みんながそれぞれの持ち味を活かして奏でる総合芸術を堪能致しました。ちなみに、シメのドルチェも、よくあるラインナップでありながら、「お？！」と思わせる食感で、なにを頼んでもハズレなしです♪

<広報部・松本恵美 記>

◆活動報告◆

2013年
8/21(水) 養成塾集合セミナー
8/29(木) 有機JAS講習会@山都町
9/8(日) 第4回理事会
9/13(金) フェスタ実行委員会
9/16(月) 判定委員会
9/19(木) 審査員研修会
9/20(金) 食農育部・くまもとの水を守ろう講演会
9/25(水) 養成塾集合セミナー
10/9(水) 有機JAS講習会@御船町
10/18(金) フェスタ実行委員会
10/19(土) 第5回理事会
10/20(日) フェスタ出展者説明会
10/27(日) 判定委員会
11/17(日) ゆうきフェスタ2013@熊本県農業公園
11/28(木) 審査員研修会、判定委員会
12/7(土) 第6回理事会
12/11(水) 有機JAS講習会@八代市
12/13(金) 県有機農業技術調査・企画委員会
12/15(日) 判定委員会
2014年
1/9(木) 県有機農業技術調査・企画委員会
1/18-19 火の国九州山口有機農業の祭典@宮崎
1/26(日) ゆうきフェスタ反省会、熊有研大新年会
2/6(木) 養成塾営農ビジョン発表会
2/8(土) 食農育部・味噌作り講座
2/9(日) 判定委員会
2/11(火) 審査員・判定委員合同研修会@七城町
2/17(月) 県有機農業技術調査・企画委員会
2/19(水) 有機JAS講習会@鳥栖市
2/22(土) 第7回理事会
3/6(木) 養成塾集合セミナー
3/21(金) 判定委員会
3/22(土) 審査員・判定員養成講座
3/27(木) 養成塾修了式・開始式
3/29(土) 判定委員会
4/2(水) 有機JAS講習会@植木町
4/8(火) 養成塾集合セミナー
4/11(金) 審査員研修会
4/12(土) 第1回理事会
4/15(火) 審査員・判定員養成講座
5/6(火) 判定委員会
5/15(木) 第2回理事会
5/21(水) 養成塾集合セミナー
5/22(木) フェスタ実行委員会
5/24(土) 判定委員会
5/31(土) 第15回通常総会
40周年記念式典、交流パーティー
6/3(火) 養成塾修了式・開始式
6/18(水) 養成塾集合セミナー
6/19(木) フェスタ実行委員会
6/21(土) 九州山口有機農業世話人会@熊本市
6/22(日) 判定委員会
6/25(水) 有機JAS講習会@御船町
6/27(金) 審査員研修会
7/16(水)

熊本県有機農業研究会 40周年記念式典

2014年5月31日（土） 於：フードパル熊本食品交流会館 多目的ホール

設立四十年を迎えて
～先達者からのメッセージを次世代の躍動へ～

理事長 青木 悦朗

本年は熊有研が「いのちと土を守る運動」として設立四十年を経たこと、そして有機ＪＡＳ法制定にともないＮＰＯ法人として再編後十五年目を迎えましたので、総会と併せた記念行事を開催しました。

永年にわたり有機農業の普及推進と消費者啓発活動に顕著な功績を挙げておられる皆さんと永年勤続役員の皆さんを功労者として表彰した後、あらためて「医食農同源」の原点に立ち戻り、先達者からのメッセージを次世代に引継、新たな躍動への第一歩とするためのパネルディスカッションを行いました。

近年では、熊本県農業コンクールでも「食の安全・安心」「自然と共存する持続可能な農業」「環境に優しい農業」という視点の広がりのみならず「自立した農業経営」として育っていることを評価した表彰が増加していることも紹介されました。

最後は、会員持ち寄りの手作り料理や自家採種の雑穀等を使った料理で、久し振りに出会った会員同志の旧交を温めたり、新規就農者とベテラン農家の交流が始まったりと、和気あいあいの中で過ごしました。参加者の中には、この交流会を毎年実施して欲しいと言う方も多数でした。

パネラー：
農業者・八反田幹人さん
消費者・古荘洋子さん
事業者・松合食品株式会社さん
後継者・本田泰晴さん
新規就農者・清村繁喜さん
コーディネーター：市来眞さん

一品持ち寄りの交流パーティーでは、数々の美味しい品が並び、大好評！

表彰者一覧（順不同）

市来 眞さん
橋本 忠昌さん
坂梨 敏行さん
間 司さん
内田 敬介さん
森田 良光さん
蓑田 友宏さん
古荘 洋子さん
片野 學さん
八反田 幹人さん
松合食品株式会社さん

上：当日の表彰の様子
右：縁の方々に執筆いただき40周年記念誌を刊行しました

広報部 編集後記

▼現在、広報部の活動の他、技術部会の活動として「熊本県有機農業リサーチプロジェクト」の調査もさせていただいています。聞き取り調査で、様々な有機農法を調査していく作業は自分自身の勉強になるとともに、有機農業の技術体系をデータベース化するという今後の有機農業の参入促進に少しでも貢献できることにやりがいを感じています。農作業の忙しい中ですが、聞き取り調査にご協力お願いいたします。今号の広報誌について、取材にご協力下さいました方々にお礼を申し上げて編集後記とさせていただきます。（兼瀬）

このタイトルは、熊有研会報第1号から使われていたものを縮小したものです。